日銀所長の 旭川とともに 5

# 今年の旭川経済を振り返って

年の瀬を迎えました。私にとって初めての旭川の冬です。スパイク付きの靴を購入し、フード付きのダウンのコートを着て毎日通勤しています。

先日の朝、気温がマイナス十六度まで下がりましたが、旭川の「しばれ具合」にも徐々に慣れてきました。旭川に着任以来、事務所管内の稚内や知床にも足を運び、北海道の広さを肌で感じるとともに、色々な方々からお話を伺って、旭川や道北の経済について自分なりに考えた五カ月でした。

皆さんにとって、今年はどのような年だったでしょうか。私なりに、旭川経済のこの一年を振り返ってみたいと思います。

旭川経済にとっての「今年の三大ニュース」を挙げるとすれば、①消費税率引き上げの影響、②外国人観光客の大幅増加、③人手不足の鮮明化、ではないでしょうか。

①消費税率引き上げの影響は、もち論、全国的にみられたことですが、旭川経済にも色々な影響が出ました。百貨店やスーパーでは、四月の税率引き上げ前後で、駆け込み需要とその反動がみられ、売上高が大きく増えたり、減ったりしました。また、乗用車や住宅の販売も、消費税率引き上げ後は、前年を下回る状況が続いています。

②外国人観光客については、七月から旭川空港に中国からの定期便が就航するようになったこともあり、台湾、中国などから過去最高の観光客が訪れ、夏場は旭川市内のホテルがほぼ満室になり、旭山動物園や層雲峡なども賑わいました。

③人手不足に関しては、有効求人倍率が年間を通じて上がり続け、バブル景気時並みの高い水準となっており、色々な業界で人手不足の声が聞かれました。

このように、今年一年を通じて、旭川経済にとって良かったこと、悪かったこと、さまざまな動きがありましたが、全体としてみれば、景気は持ち直しを続けているとみています。ただ、秋口以降、回復のテンポがやや鈍くなっているとみられるので、来年は、景気回復を一層確かなものにして、旭川のより多くの方々が景気回復を実感できる年になればと思います。人手不足の中で、雇用を確保するには、賃金を引き上げる必要があります。今後、何らかの形で所得が増えて、それが消費に回っていくことがポイントになります。これは、アベノミクスの「きも」でもあります。

今年の十大ニュースの中には、ソチオリンピックでの旭川出身の竹内智香選手の銀メダル獲得も当然入ると思いますが、旭川では来年二月二十八日、三月一日にスノーボードのワールドカップが開催されます。これは、旭川を日本全国だけでなく、海外にもPRするチャンスです。

また、来春以降、駅前再開発として、大型商業施設や複数のホテルも完成します。来年も旭川には、色々なイベント、動きが計画されています。今、世の中では、何もイベントがなくて、地方創生で何をやるか、これから考える地方もたくさんある中にあって、旭川では既にイベントがいくつか用意されています。これを活用して、既存の施設にも波及効果、相乗効果が及ぶように皆で知恵を出し合って、観光や個人消費を盛り上げていきましょう。

地方創生は、行政だけが考える話ではなく、民間レベルも含めて旭川の特性を活かしたアイディアが求められています。景気の先行きについての明るい展望や期待が持てないと、お金を使おうという気持ちは湧いてこないと思います。来年が旭川経済にとって、期待の持てる年になりますように！良い年をお迎え下さい。

（毎月第4週に掲載します）

【前屋誠（まえや・まこと）】一九五九年（昭和三十四年）東京都生まれ。早稲田大学政経学部卒。支店は那覇、北九州（小倉）、名古屋に勤務。今年七月、総務人事局企画役から旭川事務所長に着任。趣味は野球、ラグビーなどスポーツ観戦。